

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000318		
法人名	医療法人 やよい		
事業所名	グループホーム やりさんせ		
所在地	光市三井6丁目18-1		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年10月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中で、地域に根差した馴染みの生活ができるように支援しています。季節ごとの地域の行事に参加し、そこで出会った人たちと交流を深めたり、花壇や畑で花や野菜を作り収穫の喜びを感じたり、心豊かに今が幸せと感じて頂けるよう、やさしい心をもって支援しています。また、一人ひとりの「できること」に注目し、マイナス部分を支援することで「自立」につなげ、安心して楽しく毎日が過ごせるよう、居心地の良い場所の確保に努めています。

毎月のカンファレンスで、評価項目の理解のための勉強会を5回に分けて実施され、全職員で自己評価に取り組まれています。自己評価を日々の業務の振り返りと捉えられ、課題を見つけて具体的な改善に取り組んでおられます。職員全員でつくられた事業所理念に基づかれ、利用者の今を大切にされて、一人ひとりの意向にそい、利用者のペースに合わせて、ケアを実践しておられ、利用者がおだやかに過ごされている様子がうかがえました。食事は三食とも事業所でつくっておられ、畑で採れた野菜や旬の食材を使用されて調理しておられます。利用者は、下ごしらえや盛り付け、台拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にされています。季節に合わせたおやつづくりや家族と一緒に楽しめるバーベキューなど、食事が楽しめるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で意見を出し合い作った理念を施設内数か所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。地域で行われる行事に積極的に参加し、地域の人々との出会いを大切に、地域に根差した馴染みの生活が送れるよう努力している。	全職員で話し合い、事業所独自の理念を作成している。職員がいつでも目にする事が出来るように事業所内の4か所に掲示し、カンファレンスで話し合い、全職員で共有し、日々の業務の中で理念を確認して、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、クリーン作戦で土手の草刈りをしたり、当番で回ってくるゴミステーションの掃除をしている。地域の行事、さくら祭り、盆踊り、JA夏祭りに参加し、地域の方々と交流を図っている。また、お掃除ボランティアやハンドマッサージのボランティアの受け入れも行っている。	自治会に加入し、職員が地域のクリーン作戦に参加している他、ゴミステーションの掃除には利用者と一緒に参加している。地域の盆踊りや文化祭、JA夏祭りに出かけている。中学生の掃除ボランティアやネイルケア、ハンドマッサージ、ハンドベル、習字などのボランティアの来訪がある他、併設のデイサービスに来訪するフラダンス、マンドリン、歌謡等のボランティアや利用者と交流している。看護学生の実習の受け入れをしている。買い物や散歩の時に地域の人や下校時の小学生と挨拶を交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される行事に参加し、地域の人たちと交流の場を持ち、広報誌を近くのスーパーに掲示し入居者の方々の楽しい生活振りが伝わるよう努めている。また、毎年看護学校の実習生の受け入れを行っている。		
4		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎月のカンファレンスで自己評価の項目内容が理解できるよう勉強会の時間を持ち、理解できたらうで、全職員が分担し記入したものを管理者がまとめた。改善の必要のある項目については、新たに目標をたて達成に向けての努力をしている。	評価項目について5回の勉強会を開催し、評価の意義について理解している。自己評価は、全職員で分担して記入したものを、カンファレンスで検討し、管理者がまとめている。目標達成計画にそって、法人研修や内部研修を開催している。前回の評価結果を受けて、中学生のお掃除ボランティアの受け入れにつなげるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事や状況報告を行い意見交換をしている。ヒヤリハット・事故報告書をまとめたものや、外部評価の結果の報告をし、新たな情報を得たり、アドバイスをいただき、サービスの向上に役立てている。	年6回開催している。今年度から、他のグループホームの職員が加わり、ヒヤリハット・事故報告や利用者の状況、事業所の行事等の報告をしている。火災予防について消防団員から意見があり、事業所内のコンセントの点検を行っている他、離設時の対応について、地域のネットワークづくりの意見があり、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当職員とは運営推進会議で情報交換をし必要に応じて相談事のアドバイスをもらっている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、相談や情報交換し、研修の情報を得ている。市担当課とは、電話や出向いて相談をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては研修会で学び、カンファレンスで確認し、身体拘束とは何かについて職員全員が理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	「虐待及び身体拘束防止の手引き」を作成し、職員は身体拘束の具体的な内容や弊害について再確認して共通理解し、スピーチロックやドラックロックを含め拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は検討して時間帯によって最小限の施錠にするよう努め、利用者が外に出かけたいときは、職員と一緒に散歩に行くなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で勉強したり、カンファレンスで話し合い職員全員が虐待防止について理解し、もしも、虐待が起こったとき、見過ごされることがないようにしている。虐待防止についてのファイルをつくり何時でも確認できるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者はいないが、カンファレンスを利用しての勉強会で説明し職員全員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等を行う際には、家族に納得が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点がないかを尋ね、理解が得られるよう図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、意見や要望を聞き、必要に応じてカンファレンスで話し合い、意見要望が反映できる体制をとっている。また、第三者委員会を設置し、苦情申し立てに対応している。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、周知している。第三者委員会を設置している。家族の来訪時や運営推進会議で意見を聞いている。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を出しやすいよう、カンファレンスで機会をつくり、改善案や様々な提案が運営に反映できるよう気配りしている。	月1回のカンファレンスで意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも管理者が聞いている。排泄チェック表の試行、職員が記録する場所を見守りが出来る場所への変更、冷蔵庫の交換など、職員からの意見や提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のカンファレンスで意見要望を聞き、職場環境の改善に努めている。また、原則的にパート採用をなくし常勤にすることで、積極的に向上心が養われるよう取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は希望する研修会や講演会に参加し、学んできたことをカンファレンスで発表し、職員全員が情報を共有できるようにしている。また、内部での勉強会を開き、介護技術や知識を磨き、不安なく仕事が出来るよう努めている。	外部研修の情報を職員に伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。参加者は月1回のカンファレンスで復命し、全職員で共有している。法人研修として外部から講師を招き手指消毒について学んでいる。内部研修では、自己評価の項目の理解を深めるために勉強会を5回開催している。働きながらの学べるよう取り組んでいるが、内部研修の方法について検討中である。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員一人一人のネットワークで情報交換したり、運営推進会議に多施設から出席があり、相互に情報交換をし、サービスの質の向上が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉に耳を傾け、表情からも気持ちが理解できるよう向き合い、不安を軽減し、楽しく穏やかに生活できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や不安なこと、困っていることにしっかり傾聴し、家族と一緒に利用者を支援していけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決定する前に施設内を自由に見学してもらい、本人・家族と面談を行い、必要としている支援を含め適応性を判断している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を考えながら、生活の中で出来る事を職員と一緒にやり、支え合って暮らしを共にしている関係を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、普段から話しやすい関係を作り、共に利用者を支えていけるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時はゆっくり過ごせるよう配慮し、また、毎年、手作りの年賀状、暑中見舞いを出す支援をしている。 外出や外泊で、家族とともに楽しく過ごしたり、地域の行事に参加し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	家族や友人、知人、親戚の人、昔の趣味の仲間等の来訪がある。年賀状や暑中見舞い、電話のやり取りなどの支援をしている。家族の協力を得て外出や外泊、墓参りや法事に出かけ、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員がホールで過ごす時間が多く、レクリエーション等で職員が間に入って声掛けをしたり、時には代弁し、お互いのコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、サービス終了後も本人、家族の経過を見守り、必要に応じていつでも相談や支援が出来る関係であるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一人ひとりに担当の職員を決め、日常の会話や様子から本人の思いを探ったり、家族から要望を聞き、その内容をカンファレンスで全職員が検討し、少しでも希望に沿った暮らしが出来るよう努力している。	入居時に本人や家族から、家族状況や環境について聞き取り記録しているが、これまでの生活や思いの把握までには至っていない。日々の暮らしの中で、利用者に声かけして相手からの話を引き出す努力をして、利用者を担当する職員を中心に思いや意向の把握に努めているが、十分とは言えない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、今まで関わっていた人たちから、今までの生活環境を出来るだけ多く情報収集し入居後も活かせるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から注意、観察をし、いつもと違う様子がある時は職員同士で話し合ったり、カンファレンスで検討し、自立支援に着目しながら、介護サービス計画に反映できるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員が中心になり、ケアカンファレンスを定期的に関き、全職員で意見を出し合い検討して、現状に即したより良い介護計画を作成している。	利用者や家族やかかりつけ医の意見を参考にして、計画作成担当者と利用者の担当職員が中心となり、協力医療機関の看護師長も参加して、月1回のカンファレンスで検討して、介護計画を作成している。モニタリングと見直しは3～6ヶ月の期間で実施している他、状況に合わせて行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人ファイルに記録し、介護計画に沿った目標が達成出来たときは印を付け、介護計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のディサービスで行われるボランティアの催しに参加し、日頃とは違う雰囲気を楽しみ時間を過ごしたり、体調が悪くなったときは、併設病院に連絡し、すぐに診てもらえる体制をとっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる季節ごとの行事に参加したり、近くのJAへ新鮮な野菜を買いに行き、また遊歩道を散歩し自然に触れ心豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段は併設病院の医師をかかりつけ医とし、毎月健康診断を行い体調管理を行っている。本人や家族の希望がある場合は、家族の協力を得て自由に受診できる体制をとっている。必要時は歯科医の往診もあり安心できるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療がある他、歯科についても往診で対応している。他科や専門医への受診は家族の協力を得て支援し、受診結果は家族から事業所に情報を伝え、医師への情報提供を行っている。協力医療機関の看護師長が薬の管理や体調管理をし、緊急時は協力医療機関との協力体制ができていなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師長が毎日の申し送りに出席し利用者の健康状態が常に把握できるようにしている。気になることがあれば直接相談し、速やかに対応出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と情報を密にし、相談援助を行うことで、利用者や家族が安心して治療できるようにできるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・看取りに関する指針」を契約時に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、本人家族の思いを聞き、関係者で情報を共有しながら十分話し合いをし、本人家族の思いが支援に繋がるよう取り組んでいる。	「重度化対応・看取りに関する指針」を契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、かかりつけ医や看護師とに相談し、家族と話し合っ方針を決めて情報を共有し、利用者や家族の思いに沿った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が生じた場合、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、職員全員に回覧し周知徹底することで再発防止に努めている。事例は2ヶ月に1回まとめ、運営推進会議で報告し、1年に1回グラフにまとめて検討し再度、再発防止の確認をしている。消防署による訓練を法人施設合同で年2回行い、急変や事故発生時の対応に備えている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、対応策を検討したのちに、最終的に対応方法を決め、職員に回覧し周知徹底している。運営推進会議でも報告している。1年間のまとめとして、事故内容や時間帯別に統計を取り、検討し再発防止に努めている。初期対応や応急手当の訓練として、消防署の指導のもと訓練を受けているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人施設合同で、消防署の立ち合いで避難訓練をしている。実際に避難の必要が起ったときに、慌てず行動が出来るように、連絡、避難経路、避難方法についてカンファレンスで話し合っている。	年2回法人施設合同で消防署の協力を得て、消火、避難、誘導、通報訓練を行っている。事業所独自に、当日勤務のリーダーを中心にテーマを決めて、利用者も参加して、夜間想定を含めた、通報訓練、避難訓練を年3回実施し、避難場所の確認も行っている。消防団の協力を得て、地域と連携している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、本人の立場に立って尊重した言葉かけや対応に努めている。	マニュアルがあり、職員全員が一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの保護について正しく理解し、利用者を尊重した言葉かけや対応をしている。気になることがあれば、管理者が指導している。個人記録は保管し、取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望が聞けるよう常に耳を傾け、自分の思いが表出できない利用者にはその様子から思いをくみ取るよう、努力をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの1日のペースを把握し、声をかけながら、何をしたいかどのように過ごしたいかを聞き、希望に沿うよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、施設内で散髪やパーマ、毛染めが出来るように2ヶ月に1回のペースで美容の業者に依頼し、整髪を行っている。また、季節に合った服装で快適に過ごせるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いたり、畑で採れた野菜や旬の野菜を使って栄養バランスを考えた献立を立てている。時には利用者と一緒に献立を決めたり調理をしている。また、外食や出前、お弁当などで食事が楽しめる工夫をしている。	三食とも、利用者の意向を取り入れた献立で、事業所で調理をしている。畑で採れた野菜や旬の食材を使い、利用者と一緒に調理や盛り付け、台拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きをしている。職員も一緒に同じものを食べている。季節や誕生会に合わせて梅干しや梅ジュース、持ち、恵方巻き、おはぎ、鰻井、ケーキを作ったり、お好み焼きや餃子づくり、抹茶、出前や外食、家族と一緒に楽しめるバーベキューなど、食事を楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	豊富な食材を使用し、栄養が偏らないよう献立の工夫をしている。利用者一人ひとりに合った食事形態、食事量、塩分・糖分の調整をし提供している。また、1日の水分量を把握ししっかり摂取できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアの方法で、職員が声掛け見守りを行い、必要に応じて、仕上げ磨きを行い、口腔内の清潔が保たれるよう心掛けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った声掛け誘導で排泄の自立に向けた支援をおこなっている。	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、一人ひとりの排便状態を把握している。朝食時に牛乳またはヨーグルト、繊維の多い食材を使った料理を提供し便秘にならないよう工夫している。また、水分摂取や運動の声掛けで利用者の状況に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、月火木金の午前中に行っている。入浴平等になるよう一応順番を決めているが、その日の体調や外出などの状況で柔軟に対応している。入浴剤や柚子を入れ気持ちよく、ゆっくり入浴できるよう支援している。	入浴は、日曜日以外の9時10分から11時15分まで可能で、週2～3回入浴が出来るように支援している。利用者の希望に合わせて、毎日の入浴や他の時間での入浴の支援もしている。入浴剤の利用や柚子湯など、入浴が楽しめる工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度の管理を行い、本人の生活習慣を尊重し、体調に配慮しながら休息や夜間の睡眠が取れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の情報について、職員はほぼ理解している。看護師が配薬し、利用者の状況に応じて服薬介助を行い、確実に服薬できたか、また、症状の変化に注意を払っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を振り返り、日常生活の中で本人の得意とする分野や本人の希望に沿って、持っている力を活かした役割、楽しみ事が出来るよう支援している。	しめ縄づくり、餅つき、鏡開き、節分の豆まき、ひな祭り、そうめん流し、クリスマス会などの季節に合わせた行事や、誕生会、カラオケ、ボール投げ、風船バレー、さつま芋や玉ねぎの苗植えや収穫、花壇の手入れ、メダカの餌やり、言葉遊びゲーム、梅干し作り、テレビ視聴、写経、ちぎり絵、自室の掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理や下ごしらえなど一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、生きがいや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に沿って、花見や外食、地域の行事へ参加し、外出の機会を設けている。デイサービスセンターの来訪者と交流したり、天気の良い日は、花壇や畑の手入れをしたり、散歩に出かけ外気浴の機会を設けている。また、家族との外出や外泊が自由にできるよう配慮している。	季節の花見(桜、ばら、コスモス)地区の盆踊りや文化祭への参加、併設のデイサービスに来訪するボランティアとの交流、家族の協力を得て、外食、外出、外泊、法事への参加、近くのスーパーへの買い物や散歩、畑や花壇の手入れなど、利用者一人ひとりの希望に合わせて外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、家族と相談の上金銭を所持し、ジャスコ等へ職員と一緒に買い物が出来るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月行っている習字の時間に手書きの年賀状や暑中見舞いを家族に出している。また、プレゼントのお礼など、本人の希望があったときは、手紙を書いたり電話でゆっくり話が出来よう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホールは日当たりがよく、食堂の大きな窓からは島田川や山々の景色が見え、野鳥や花など四季折々の自然を感じる事が出来る。 食堂とホールが区別してあり、ホールの隣に畳のスペースもあり利用者がゆったり過ごせる空間がある。壁には行事の写真や季節の壁飾りを貼楽しめる工夫がしてある。	食堂と居間が区別されており、自宅で過ごしているような雰囲気、食事の後は居間でゆっくりと過ごすことが出来るように工夫している。明るさ、温度、湿度、換気に配慮している。居室の前には、利用者の折った折り鶴が飾っており、壁面には利用者の作品や行事の写真が飾っており、温かい雰囲気の中、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファやベンチに自由に腰かけ、テレビを見たり、気の合った利用者同士が話出来るような居心地の良い場所の提供をしている。 身体状態によっては肘掛椅子を用意し安全に過ごせるよう配慮している。また、一人でゆっくり過ごしたい時は、自由に居室で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持って来ていただき、家族の写真やプレゼント、誕生日の色紙などを飾って居心地良く過ごせるよう工夫している。	馴染みの家具、整理ダンス、置き時計、テレビが持ち込まれ、利用者や家族の写真、趣味の作品、誕生日の色紙や品物を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーで、廊下やトイレ等必要な場所に手すりが設置してある。扉はほとんどが引き戸になっていて移動時の安全に配慮し、自立した生活の妨げにならない工夫がしてある。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームよりさんせ

作成日：平成 27年 4月 14日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	内部研修の充実、方法について検討する。	定期的に内部研修を行い、働きながらトレーニングできる環境を作り、職員の質の向上を目指す。	定期的な内部研修や、外部研修の復命時に出た意見や質問を記録に残し、全職員で共有し、より良いサービスの提供に役立てる。	1年
2	24	入居者一人ひとりの思いや意向の把握が十分ではない。	入居者一人ひとりの思いや、暮らし方の希望をしっかりと把握する。	入居時の面接で暮らし方の希望や意向をしっかりと聞くと共に、普段の生活の中で関わりながら聞いた情報を記録に残し、全職員が周知できるようにする。	1年
3	35	全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練を行っているが、全職員が実践力を身に着けるには至っていない。	定期的な応急手当や初期対応の訓練を継続し、全職員が実践力を身に着け、的確な判断や対応が出来るようにする。	ヒヤリハット・事故報告書に上がった内容や、体調の急変を想定し、どういう対応をすればよいかを全職員で考え、的確な判断や対応が実践力として身に付くようにする。毎月のカンファレンスで1件以上の事例を出し記録に残す。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。